

# 平戸

令和6年2月29日  
横浜市立平戸小学校  
〒244-0803  
横浜市戸塚区平戸町542番地  
TEL 045-821-2329  
FAX 045-826-2005



学校HPが  
更新されています。  
ぜひご覧ください。  
(閲覧数 2/29 現在  
84,282)



## 『無理の壁』

校長 若色 昌孝

先日、本校職員が、「校地に『ふきのとう』を見つけました。」と私に教えてくれました。少しだけ採り、児童に見せることにしました。『ふきのとう』は、2年生の国語の第一教材です。子どもたちは、「なつかしいなあ。」と声にしながら、『ふきのとう』を見ていました。春の訪れを感じるとともに、自らの成長も感じていることと思います。

先日給食で、旬の果物『ぼんかん』が出ました。今年度は1回のみメニューです。しかし、下膳時の給食室を見ると、残念ながら食べ残しの山です。子どもたちに、「ぼんかん、きれい？」と尋ねてみると、「きれいじゃないけど、むくのが面倒くさい。」「いつもは、皮とか種とか、ないから…」との声。確かに、そうなのでしょう。その、皮をむく、種を取るといふひと作業が、大きな壁となってしまっているようです。これは、魚の時でも同じで、小骨が大きな壁となっています。

一人ひとりを大切にすることが教育の前面に出てきてから10年、20年…。個を大切にすることの考えはとても大切なことですが、個を大切にあまり、私たちの教育現場では、ともすると、すぐに、「無理しなくていいよ。」と言ってしまいます。無理しなくていい…このことも正しいことです。しかし、その子の『無理の壁』はどの高さなのか…が、なかなか分からない中で、私たちはこの言葉を子どもにかけているという面もあります。鉄棒でも、縄跳びでも、給食でも。もしかしたら、少しのチャレンジで乗り越えられ、その向こうの景色を見られるかもしれないのですが、私たちの「無理しなくていいよ。」の言葉が、子どものチャレンジする気持ちをくじいているのかもしれない。

その日一日を安全に過ごし帰宅できればいいという考え方もありますが、学校は教育の場です。やはり、力をつけられる場面では力をつけて、子どもたちを少しずつ成長させていきたいです。子どもに何を求めて、何を求めず見守るか…その見極めを丁寧に行っていきたいです。教師は、時には、「無理しなくていいよ。」の言葉を飲み込み、そして子どもは、自分が設定する『無理の壁』を少し低くし、自らの意思で「やってみよう」と一歩踏み出せるような…そんな平戸小学校でありたいです。

実質半月ほどしかない3月ですが、子どもたちと共に実り多い時間を過ごし、どの子にとっても次の大切なスタートにつなげていきたいです。一年間のご協力に心から感謝申し上げます。今後ともあたたかいご支援をよろしくお願いいたします。

